
終わる世界～それぞれの思い～

山菜歩

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

終わる世界（それぞれの思い）

【Nコード】

N5477H

【作者名】

山菜歩

【あらすじ】

あと1日で地球が崩壊してしまうとしたら、あなたは最期の1日をどう過ごしますか？6人の人間の行動にスポットを当ててみようと思う。。。。。

case 0 開幕の鐘が鳴る

この頃、月が妙に大きく見える。
小さな地震が頻発する・・・

私こと、山菜歩は何か違和感を感じていた。

そうしたら、まあ案の定・・・。

街頭テレビから流れてきた情報によると、地球が崩壊するらしい。

専門家ではないので詳しいことはわからないが、月の軌道が突然外れ、地球に向かってきているというのだ。

しかも、およそ24時間で地球と衝突することのこと。
どんな時でもマイペースな某テレビ局ですら、このニュースを報道している。

こんな状況に陥った人間は、一体どんな終末を迎えるのだろうか・・・。

そして、こんな状況を作り出した私はどんな終末を迎えるのだろうか・・・。

6人の人間に、焦点を当ててみようと思う。

case 1 く思い出の場所へく(前書き)

こちらの作品は鬱展開になっております。
苦手な方は閲覧注意願います。

case 1 く思い出の場所へく

ぷっつ

小さな音を立てて、パソコンの電源が切れる。

地球が崩壊する。

そんなニュースを聴いたのは今朝のこと。

で、明日崩壊してしまうらしい。

らしいって言うのは…俺自身、まだ実感がわかないのだ。

頭が追いついてこないと言うか…いまいちピンとこないのである。

ネット上では、今夜の時点で様々な情報が入り乱れていた。

専門家達の論議。

憶測と混乱を極めた掲示板サイト等々…

人々のうろたえっぷりがよくわかる。

どの道明日は何もやることがないから、のんびり昼寝でもして過
そうかと思っていたら…

耳慣れた着信音。

…俺は思わず固まった。相手は確認せずとも判る。
でも、見ないと着信ランプがいつまでも点灯して目障りだ。

Eメール着信。相手は姉さんだ。

件名：なし

本文：

付き合え

たった4文字だが、俺を動かすには充分すぎる。

「・・・送信」

明日の昼寝の時間はお預けになりそうだ。

翌日。

姉さんご指定の場所に行く。

「遅い」

姉さんは相変わらずのご様子だ。

姉さんと言っても、血が繋がっているわけではない。

姉御肌で、俺が彼女を姉のように慕っているだけだ。

どの女性もそうなのかもしれないけど、姉さんの買い物は疲れる。先を歩く姉さんの姿は颯爽としている。

俺は体力には自信はある方なんだけど、いつもへとへとに疲れてしまっ。

細身の身体のどこにそんなバイタリティがあるのかといつも思う。

とりあえず昼食を取って、また買い物開始。

姉さんは、一軒のアクセサリーショップに目を付けた。

ビルのワンフロアの位の広さだろうか。

個人経営のシルバーアクセサリーの店だった。

レディースのアクセサリーがメインだが、中にはメンズの物も数点というラインナップだった。

「これ、見せて下さい」

カウンターにいた女性に、姉さんは声をかけていた。

「はあい。少々お待ち下さい」

店員はそう言い、ショーウィンドウの鍵を開ける。

店員が取り出したのは、天使の羽根と悪魔の羽根のペンダントだった。

羽根の付け根の所に、天使のには透明な石が、悪魔のには黒の、ブリリアントカットの石が据えられている。
表示を見ると、どうやら新作らしい。

姉さんと店員はしばらく話をしていた。

置いてけぼりをくらった俺は、何もすることがなく、携帯を開いたのだった……

しばらくして。

「これ下さい」

姉さんのよく通る声が耳に入った。

え！？

声には出さなかったが、思わず姉さんを見る。

姉さんはストラップに加工してもらったように、店員にお願いしていた。

お会計。そして、店を出て。

「こつちを持ってな」

と言って、俺に天使の羽根のストラップを渡した。

・・・普通、逆じゃね？

これを見る限り、悪魔の方が男性じゃね？

そう言おうと思ったけど、もう姉さんは携帯に装着済みだった。

腑に落ちない部分はあるけど、とりあえずお礼を言って素直に受け取ったのだった。

気がつくともう夕方だった。

ストラップの透明な石に、夕日が反射していた。

あと数時間で、全部なくなっちゃうのか。

俺は今更になって、ようやく実感したのだった。

実感した後に来た感情は・・・

純粹な恐怖だった。

そんな俺の気配を察知したのか、姉さんは声をかけてきた。

姉さんは、人の微妙な変化に敏感だ。

「久しぶりにここに来たし、あそこに行かない？」

「あそこって・・・？」

「公園。よく行ったでしょ」

確かに怖いけど。

そんなことを考えていても仕方がない。

今を思い切り楽しもう。

「いいですよ。行きましょう」

気がついたら俺は姉さんの前を歩いていた。
姉さんはぼかんとしていた。

こわばった顔を見られなくなかった。

公園は小高い丘の上にあつて、町全体を見渡せる展望台があつた。
姉さんと顔を合わせていた時に、よく来た公園だ。

最後の晚餐は、コンビニのサンドイッチか。

ついうっかり口にしてしまい、「可愛くねえヤツ」と姉さんに頭を叩かれた。

食事を取りながら、いろいろなことを話した。

苦手なことを克服できたこと。

友達がたくさん出来たこと。

その友達は面白い人たちばかりで、付き合っていて楽しいこと。

珍しく俺の方が饒舌になっていた。

姉さんは相槌を打ちながら、時折質問をはさみながら俺の話の話を聞いてくれる。

苦手なことを克服できた時の事を話した時には「すごいじゃん！頑張ったね」って褒められた。

嬉しいけど・・・少々照れくさい。

自分から進んでお酒は飲む方ではないが、思わず買ってきた缶ビールをあおった。

姉さんはくすつと笑うと、自分もカクテル缶を開けたのだった。

空はすでに真っ暗。

そして空を覆うほど大きくなった月。

時折だった地震が、頻発している。

今がとても楽しくてしょうがないのに

非情にも 終わりの刻は 確実に近づいていた・・・。

f i n a l e e 1 に続く。

case2 く食べたことのない「あの食材」を食べたい！く（前書き）

基本鬱展開ですが・・・このお話は、少々コメディチックかもしれません

case 2 く食べたことのない「あの食材」を食べたい！く

なあー！？

テレビを見ながら夕食を取っていた俺は、思わず素っ頓狂な声をあげた。

何でって・・・明日地球がなくなるって！？

ちよつと寝過ごしただけで、何であるチャンネルまでニュース流れてんの！？

ノストラダムスのおっさんも真っ青通り越して、心臓マヒ起こしてぶっ倒れますってコレ！

現に俺も今、椅子ごと後ろにぶっ倒れそうだったし！

そんな状態でも、俺は四つ切りにしたトマトを頬張る。

うん、トマトは大事や

リコピンパワーで、ダルさ知らずや

・・・

あー・・・、俺パニックってる。何かいきなり冷静になった。

我ながらテンションの配分がよろしくない。

さて。

いざどう過ごそうか悩んでいた時・・・。

そついや、友達と話した時にちらっと聞いた話しを思い出した。

ドライトマト。

食べたこと、ないなあ。

えーと・・・

「輸入食品店にgo」って言ってたっけ。

・・・

PCの電源を入れて、ネットに繋ぐ。

良かった！まだ使える。近場の食品店を探して、地図を印刷。

…意外と結構近くにあったんだなあ。気付かんかった。

今日はもう閉店してるし・・・。

よあし。

ドライトマト、待つとれい！

・・・俺は変な気合いを入れたのだった。

翌日。

町はいつもと変わらない。

もっとこう、交通機関マヒ！とか、経済大混乱！とかになってると思
つてただけど…。

いや、期待してたワケじゃないですよ？

地図を見ながら、歩くこと10分程。

お目当ての食品店を見つけましたよ。

こここの食品店、めっさごちやごちやしてません？

てか、人員削減しすぎですってば！

場所を聞こうにも、どうにもならんがな！

キヨロキヨロしながらドライトマトちゃんを探していると。

「何かお探ですか？」

おっさ…ゲフンゲフンお兄さんがご丁寧に声をかけて下さった。歳なんだか若いんだか、判断に困っただけっす。念の為。

「えと…ドライトマト探してます」

「乾燥食品は、右奥のコーナーですよ」

「あ、ホンマや。ありがとうございます！」

よく見たら看板かかってた。

ウミヘビくん、邪魔やねん！

キミが背伸びしてたから、看板が見えんかったわ！

俺はお…兄さんにお礼を言っと、早足でコーナーへと向かった。

…そして。

念願のごたいめん

へえ…。

ドライ克蘭ベリーがでつかなくなったみたいな形してる。

シチリア産…ああ、イタリア産なのね。

うん。お買い上げるに決まってるじゃん

4〜5パックを買い物籠に放り込んで、俺はいそいそとレジに向かったのだった…。

店を出るときに、おっさ…お兄さんが不思議そうな目でこっち見てたのを追記します。

さて。

買った方がいいけど、どう使うの？

しゃくしゃくとトマトちゃんをツマミながら、俺は考える。
このまま食っても美味しいけど・・・

ポーン

あ、メール来た。

コーヒーを飲みながら、来たばかりのメールを開く。
友達からだ。

”そろそろ食材を手に入れた頃でしょう”

・・・って、何でわかるん!?

えーと、何何??

・・・あー。あのおっさ・・・ゲフンお兄さんは、友達の彼氏さん
だったんか。

納得納得。

てか、すっげえ偶然。

友人はご丁寧に、調理方法を教えてくれたのだった。

”調理方法の基本は普通のトマト料理と変わりません”
ふんふん。

”塩気が強いので、味付けにだけ気を付けてください”
うん。確かにしょっぱかった。気を付けます。

”水で戻したあと、あなたの好きな料理を存分に作るがいい!!”
らじゃー! って、めっちゃアバウト!!

あの人らしいっちゃらしいけど・・・。

さて。腕が鳴りますなあ。

最後の晚餐は、トマト祭りやあ〜!!

ふふんふふんふふーん
鼻歌交じりに包丁を動かす。

ミネストローネ、ドライトマト入りミートソースのスパゲッティ、
ニース風マッシュポテト……。
時間もまだまだあることだし、手の込んだ料理もできるって

あー……。何だろ。

こんなにのんびりした一日、何ヶ月ぶりかなあ……。

ずっと仕事に追われてて、帰ってくる頃にはもうへとへとで料理する気も起きなかったし。

口を開けば仕事の事ばっか話してたような気がする。

今気がついたけど、俺、結構気持ちに余裕がなかったんとちゃう？
今更って感じだけど、もっと早く気づきたかったなあ……。

P i P i P i P i P i P i

キッチンタイマーの音で、俺は我に返った。

物思いはこのくらいにして、今は料理を楽しみますか

俺は茹で上がったスパゲティを、鍋から上げた。

そして。

ディナー完成！

ブラッディマリーなんぞを作りつつ、自分の料理に舌鼓を打った。
こんな晩飯、久しぶりだあ。

んで、自分で言うのもなんだけど、結構うまいやん。

ダチがいたらもっとよかつたんだけどなあ。

ひとりは「行きたいところがあるから」って言ってたし。

メールくれた友達は「今アメリカ」って返事が返ってきたし。

そこはちよつと残念だけど、おなかも心も満足満足ですわ。

食事を終えて。

ネットラジオをBGMに、のんびりとタンブラーを傾ける。

何にもしないで、ぼーっとしてる。

だんだん地震が強くなってきている。

妙に外が明るい。

カーテンを開けると・・・。

あ・・・ありえん・・・！

お月さんがほとんど空を覆ってるやん！！

クレーターがめっさ見えるで！

やっと事態の深刻さを思い知った。

でも。

今はまだ、どうでもいいけどなあ

こんな終わり方も、有りだと思っし。

俺一人があがいたって、何にもできないし。

終わりの刻を、ゆっくり待とう。

俺は椅子に座り、トマトジュースをタンブラーに注いだ。

f i n a l e 2 に 続 く

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5477h/>

終わる世界～それぞれの思い～

2010年10月16日00時03分発行